

令和5年度業務実績にかかる小項目評価結果（案） 項目別整理表

資料 3

原案では、①具体的な実績をあげて、高く評価できると記述されているほか、新たな取組が記述されており、かつ、②今後について大きな改善点が求められていない項目を選定しています。

< I - 第1 教育に関する項目 >

項目番号	項目名	評価記号		評価委員会のコメント(又は評価委員会の判断理由)	「全体評価」における重点的な取組及び特筆すべき取組	「項目別評価」への反映	
		法人評価	委員会評価			重点的取組及び特筆すべき取組	評価に当たった意見、指摘事項等
21101	適切な選抜の実施(学部)	-	-	<p>令和7年度入学者選抜試験の実施に向け、地域の事情等をふまえた特色ある新たな入学者選抜方法を積極的に導入しながら、常に入試改革に努めている姿勢は評価できる。また、令和6年度入学者選抜試験において、入学定員を満了し、合計103名の学生を確保したことは評価できる。</p> <p>新たな入学者選抜方法や変更した点について、特に三重県内の高校へは丁寧な説明と適切な広報を継続して行っていただきたい。そして、より高い資質を備えた入学生の確保や、地域に根差す保健医療福祉に寄与する人材育成に期待したい。</p> <p>地域推薦型選抜の評定平均値など変更した点については、今後十分な分析を行いながら入学者選抜方法を検討し、入学者選抜試験の内容・方法・広報の吟味が必要である。</p> <p>また、新たな入学者選抜を経て入学した学生が貴学を卒業後、三重県内の保健・医療・福祉等にどう反映したか、追跡調査が今後必要であると考えます。</p>	○	○	
21102	高大接続の拡大(学部)	-	-	<p>地域、受験生が求める高大接続の拡大と内容の充実に向けて努力しているが、時代に合った内容の充実に情報を駆使し、さらに取り組んでいっていただきたい。</p> <p>また、昨年度から検討している「多言語多文化選抜」については周辺地域の関係者の高い関心とともに入学後の期待も大きいと考えられる。入学後のサポート体制のあり方等について詳細な検討を今後も継続的に行っていただきたい。</p> <p>「一日みかんだい生」や「出前講座」の事業は、参加者のアンケート結果満足度も高く、高校生にとって看護職への理解を深め、進路のミスマッチを防ぐ一助となっている。同時に大学—県内医療機関—行政機関—高校が連携しており、貴学の三重県の諸機関と一体となった取り組みが地域に貢献する意欲ある看護職の育成につながっているものと評価できる。</p> <p>今後は事業内容の改善(高校生への魅力アピール)とともに大学—県内医療機関—行政機関—高校の連携のシステム化が事業の質を向上するための課題だと考える。</p>	○	○	

21103	適切な選抜の実施(研究科)	-	-	<p>入学希望者確保のために選択できるコースを増やしたり、募集方法や広報など努力していることは評価できる。さらなる応募者増加にむけた広報を含む努力に期待したい。</p> <p>大学院生の確保は重要な課題になっている。現在の定員割れをどのように解決していくのか、博士後期課程設置を構想しているのであれば、極めて重要な問題である。博士後期課程の中心となる「地元創成看護学」等の広報の仕方や大学院の在り方(ex.社会人院生が入学・学習しやすい大学院)の検討が必要である。</p> <p>貴学卒業生の大学院進学を増やすため、学内からの大学院進学を促す学内推薦入試(入学料免除)は重要な試みとして評価できる。今後その効果の検証も計画的に行っていただきたい。</p> <p>また学部時代からのキャリア教育を含めたさらなる学生の向上心へのアプローチ、また修了生の活躍のモデルを示すなど、幅広い方面からの広報に期待したい。</p>		○	
21104	教育課程・教育方法・内容の充実(学部)	-	-	<p>「三重を知ろうⅠ」や「三重を知ろうⅡ」は、県内就職率の観点からも重要な取り組みである。地域を巻き込んだフィールドワークの実施など充実が図られており、看護師や特に保健師に必要な「地域特性の理解」につながる基礎的な経験を得ることができる、非常に良い取り組みであると評価する。三重県立看護大学の特色ある魅力的な授業の一つとして今後も充実させてほしい。</p> <p>卒業生の評価として県内就職先に依頼している「学修成果に関する調査」については、今後のアンケート調査を十分生かしていただきたい。</p> <p>国際交流に関して、公立大学として地域に根差す大学であると同時に、高等教育機関の教育・研究には国際的視野が必要である。マヒドン大学と国際交流協定を更新し、「看護×国際交流」を展開したことは評価できる。国際交流は、コロナ後も積極的に実施していただきたい。一方で、国際交流は一大学との再締結ができなくなったことや学生の参加者が少ないことは残念である。今後重要となる国際交流の方法、在り方をぜひ前向きに検討していただきたい。今回の実施方法や参加者の状況などの結果を十分に分析し、全体的に縮小していかないよう学生への周知を含め、早期の改善を期待する。</p> <p>また、入試において、「多言語多文化選抜」を実施することを鑑みれば、学生も教員も地域に根差すと同時に国際化の意識を醸成する教育・研究が必要になると考える。マヒドン大学の他に他国の看護学部をもつ大学との国際交流(教員の研究交流、学生の留学等)を増やしていくことに期待したい。</p>		○	
21105	公正な成績評価の実施(学部)	-	-	<p>成績評価は適切に実施されていると考えられるため、今後も公正な評価をお願いしたい。</p>		○	

21106	教育課程・教育方法・内容の充実(研究科)	-	-	<p>学習環境、ニーズにあった教育方法など学生の学びやすさを考慮し、学修成果を最大限に上げていく方法を考え実践してきていると考えられ、遠隔授業を講義形態に取り入れることは評価できる。一方で、対面授業と遠隔授業をどのように組み合わせていくかは課題であり、科目の特性と学生の学習レディネスとの関係で考える必要があるため、教育成果を十分に考慮した教育内容の検討を行っていただきたい。</p> <p>博士後期課程設置に向けた準備が進められている点は評価できる。ただ、博士後期課程の設置の趣旨、院生確保の見通し等、三重県立看護大学を取り巻く状況をしっかりと分析する必要があると考えられる。大学内から博士後期課程に進学する学生のみでなく、地元で活躍している看護職者などが学習しやすい取組(ex.長期履修や遠隔授業)が必要と考える。また、博士後期課程を修了した者が地元に戻り、フィードバックを行うことで地元還元される仕組みが必要と考える。</p> <p>関係する周辺の状況と意見を考慮しつつ、設置者等とも前向きに検討の継続を進めていっていただきたい。</p>		○	
21107	公正な成績評価の実施(研究科)	-	-	<p>大学院生にも正式にルーブリック評価を導入したことは、学生の質保証の面から一定の評価はできる。今後、「学修成果ルーブリック評価」をどのように教育研究活動の改善に生かしていくかが重要である。</p> <p>学位論文審査及び最終試験を引き続き適切に実施していただきたい。</p>		○	

21201	授業の点検・評価	-	-	<p>長期間にわたり多方面からの授業点検評価を実施していることは評価できる。「授業改善等報告書」では、「学生による授業評価」と「教員相互の授業点検評価」の両面から行われている点は評価できる。一方で、その評価結果を次年度の教育活動にどのような形で生かされているかをしっかりと点検することが課題である。</p> <p>「学生による授業評価」では、講義・演習科目の前期および後期、実習科目の前期において、評価が上昇しており、概ね教育内容の改善が図られているものと評価できる。また、昨年度と比較し、回答率が向上したことについても評価できる。一方で、実習科目の後期の評価が低下している点については、その原因等を分析のうえ、さらなる改善に取り組む必要がある。</p> <p>今後も評価方法や実施が形骸化することがないように進めていっていただきたい。</p>				○	
21202	研修会等の開催	-	-	<p>「FD講演会」、「FD/SD講演会」、「研究科FD研修会」は、それぞれ有意義な内容で開催されており、教育・研修の水準を高めることが期待できるものと評価できる。これらのFD活動が共同研究の推進と大学づくりに生かされることを期待したい。</p> <p>更に大学の今後に向けて(博士後期課程開設に向けて)の研修会も企画、実践されており、教員の将来的な準備にむけた取り組みは評価できる。「地元創成看護学」については、今後の大学のあるべき姿を考えるうえで参考になる内容であると考えられ、大学と社会の価値創造につながることを期待する。</p> <p>博士後期課程設置作業では大学内部の課題意識と外部の専門的知識や情報をすり合わせる必要があり、この研修会がその役目を果たすように機能することを望む。</p>				○	○
21301	学習支援	-	-	<p>学生相談制度、チューター制度のアンケート結果は両者ともに学生の満足度が高く、評価できる。</p> <p>また、学生が自主的に学習できる環境を提供する場として学生ホールやラーニングコモンズ等の活用は評価できる。</p> <p>令和5年度学生相談対応状況の集計の結果、教員が889件の個別相談に対応しており、非常に丁寧な指導をしているともいえる。一方で、教員の負担が大きくなる懸念があるため、学生相談の専門職の配置等の検討も必要になってくる場合も考えられ、今後の課題である。</p> <p>看護師等国家試験の結果は、看護師国家試験と保健師国家試験で目標値の合格率100%に達しなかったが、学生支援の充実が図られているものと評価できる。国家試験対策が追加が必要と考えられる対象者には個別的に分析し、有効な方策をさらに検討し、それに基づいた支援を継続していっていただきたい。</p>					○
21302	大社接続の支援	-	-	<p>大学の「出口」(進路)問題は大学にとって重要課題である。学生達にも、県内就職率のためにも「就職説明会」や「ようこそ先輩」は重要であり、参加施設も多くアンケート結果も良好であることを評価する。</p> <p>また「卒業生支援プロジェクト」、「卒業生のきずなプロジェクト」などの現場で働く卒業生との共同の事業は参加者の満足度も高く、評価できる。</p> <p>大学のステークホルダーとしての卒業生、同窓会は就職や財政面において重要な存在であり、こうしたステークホルダーとの共同事業のさらなる発展を期待したい。そして、大社接続支援を新たな方向にも発展させていっていただきたい。</p>				○	○

21303	就職支援	—	—	多様な大社接続支援や適切な就職支援より、県内就職率は前年、目標を共に上回り、数値目標を達成したことは評価できる。県内就職者の確保につながる対策の検討・実施の成果だと考えられる。県立大学として県内就職者の確保はとて重要であるため、今後もさらに変化する学生のニーズや社会のニーズにあった就職支援に努力していただき、引き続き県内就職者の確保につながる対策の検討や実施をしていただきたい。	○	○	
計	12項目				5項目	12項目	0項目

< I - 第2 研究に関する項目 >

項目番号	項目名	評価記号		評価委員会のコメント(又は評価委員会の判断理由)	「全体評価」における重点的な取組及び特筆すべき取組	「項目別評価」への反映	
		法人評価	委員会評価			重点的取組及び特筆すべき取組	評価に当たった意見、指摘事項等
22101	研究と地域課題との循環の促進	—	—	受託事業や他大学・病院との連携により地域課題に関する研究を推進している点は評価できる。県市町、医療機関との連携は地域貢献に重要であり、積極的に推進していただきたい。 看護職者等を対象とした①看護研究SEED、②ハウツー看護研究、③看護研究エッセンス、④その他の看護研究支援など幅広い「看護研究支援」活動を展開している点は高く評価できる。これらの研究支援が大学院入学につながることを期待したい。そのための工夫が必要である。	○	○	
22102	競争的研究資金の獲得	—	—	外部資金の獲得は、全国的に大学予算が削減される中で、大学の研究力向上のために欠くことができない課題になっている。 競争的研究資金の応募申請率が目標としている100%であったことは、教職員が認識し、努力した結果であると評価できる。また継続申請を含めた採択率が59.2%であることも他大学に比して優れていると考えられ、研究資金獲得に向けた支援の充実と本人が努力した結果である。ただ、大型の科研費(AやB)の獲得が少ないことから、大型の科研費を獲得するためには大学の組織的なサポートシステムが必要だと考えられる。 企業等からの受託研究や共同研究を積極的に導入し、外部研究資金の受入れに取り組んでいただきたい。		○	
22103	研究成果の公表と還元	—	—	教員の研究業績や課題の公表については一般的な方法(HP掲載)で実施されている。一方、教員の研究活動の成果を地域や県民に還元する「みかん大出前講座」(55件)、「みかん大リクエスト講座」(54件)は、各講座ともに1300~1500名の参加、そして満足率も極めて高い。県民に向けた研究成果の公表・還元として高く評価できる。 研究成果の公表の場の一つとして紀要を発刊しているが、ここ数年教員の考えとのズレがあるように捉えられる。できる限り早期に紀要の在り方についての検討を進めていただきたい。		○	

22201	研究活動への支援	—	<p>各教員の専門分野における教員間での相互支援体制を整備し、令和5年度は11件の教員間の研究支援が実施された点は評価できる。</p> <p>ただ、「各教員の専門分野における独創的・先駆的な研究を支援する」ことに関わって、記述されている研究支援の内容(研究課題の抽出、研究計画書の作成、研究データの分析方法、論文作成、倫理審査受審、科研費申請にかかる支援など)では本来の研究支援としては不十分で、独創的・先駆的な研究を支援するバックアップ体制を構築する必要があると考えられる。</p> <p>研究倫理に関して、研究倫理審査は的確に実施されているように考える。とりわけ「迅速審査」の実施により研究が遅延することなく進められている。看護研究のような領域では2つの審査方法は良い審査システムだと考えられる。科研費による研究費の不正使用防止のための意識向上にむけた対応など、研究を進めていく上において気にかかる点や重要な点についての対応が必要時行われている。</p> <p>今後も不正防止に努めていただきたい。</p>		○	
計	4項目			1項目	4項目	0項目

< II 社会・地域貢献に関する取組 >

項目番号	項目名	評価記号		評価委員会のコメント(又は評価委員会の判断理由)	「全体評価」における重点的な取組及び特筆すべき取組	「項目別評価」への反映	
		法人評価	委員会評価			重点的な取組及び特筆すべき取組	評価に当たっての意見、指摘事項等
31101	看護職者の能力向上	Ⅲ	Ⅲ	三重県受託事業を令和4年度から継続して着実に実践しており、積極的に推進していることは評価できる。看護職員認知症対応力向上研修事業に関しては、三重県全域から参加があり、講義への満足度が平均94.8%であることは評価できる。 認定看護師教育課程「感染管理」は令和4年度から順調に修了生を出し、令和5年度には教育訓練給付申請を行うなど研修生の負担軽減につながるような積極的対応を行い、受講しやすい環境づくりを行っていることは評価できる。 「教員提案事業の看護職者に向けた取組」(「みえ保健・看護力向上支援事業」10件)は看護職者の教育・研究支援としては評価できる。一方で、新奇性のある取り組みが今年度はなかったと考える。		○	
31102	卒業生へのキャリア支援	Ⅲ	Ⅲ	卒業生の動向、ニーズ調査をして卒業生キャリアアップのために必要な大学としての支援内容を明確にして対応していることは評価できる。一方で、博士号取得と就職後のライフワークバランスの課題へのサポートについては実行されていない。 卒業生のキャリア支援は大学の評価に大きく影響すると考えられるため、キャリア支援活動の進展を期待する。		○	
32101	県民のヘルスリテラシーの向上	Ⅳ	Ⅳ	「県民のヘルスリテラシー向上」のために教員各自の専門分野を生かして実施した「みかん大出前講座」、「みかん大リクエスト講座」は件数、参加者ともに前年度とくらべて増加し、延べ参加者数2,865名、満足度は98.9%と高い。さらに「県民のヘルスリテラシー向上支援事業」、「公開講座」(3回)の取り組みは大学の地域貢献として地域住民の心と身体の健康に役立つこととして極めて高く評価できる。貴学の教員の努力が認められる。 県民のヘルスリテラシーを向上させることは、県民のためでもあるが、大学の評価を地域で上げることにつながるため、引き続き積極的に「県民のヘルスリテラシー向上支援事業」を進めていただきたい。	○	○	
33101	教育研究活動に基づく社会・地域貢献	Ⅳ	Ⅳ	「教員各自の専門分野を活かした社会活動・研究活動」として、多くの教員が公立大学の教員として地方自治体等の委員会、審議会、協議会等の委員として専門的知識を提供し貢献していると評価できる。 また、県立大学として、地域貢献は重要であり、県内病院等看護管理者意見交換会は評価できる。 さらに、連携協力協定病院を新たに加えたこと、既に締結した病院とは人事交流教員を受け入れるなどによる関係性の維持に努めたことは評価できる。今後は病院との連携協力協定締結後の具体的な成果等の報告を期待したい。		○	

計 4項目

1項目

4項目

0項目

<Ⅲ 大学運営に係る環境整備に関する取組>

項目番号	項目名	評価記号		評価委員会のコメント(又は評価委員会の判断理由)	「全体評価」における重点的な取組及び特筆すべき取組	「項目別評価」への反映	
		法人評価	委員会評価			重点的取組及び特筆すべき取組	評価に当たった意見、指摘事項等
41101	学生の生活支援	Ⅲ	Ⅲ	<p>新型コロナウイルス感染症による制限が解除され、学生の行動範囲が急激に拡大した際に健康管理者が不在であったが、教職員一丸となって大学生生活全般についての支援が詳細に行われており、生活支援が充実していると評価できる。</p> <p>学生の声(意見箱)とその対応については意見箱以外にも気軽に投書ができるようにQRコードを活用したり、Web投稿も導入し、寄せられた意見は学内ホームページや学内に掲示して周知するなど、見える形で公表するような方法が考えられ、実践されている。</p> <p>さらに学生、教職員、地域住民が一体となる夢緑祭の久々の開催、ボランティア活動の拡大など、学生の大学生生活の支援を丁寧に行っていることは評価できる。夢緑祭等はコロナ世代の学生にとっては貴重な機会であり、今後も継続的に支援していただきたい。</p> <p>多くの学生が地域に出てボランティア活動をすることによって地域の人と接し、地域の新たな課題を発見する活動が増えることを期待したい。</p> <p>経済的に困窮している学生へのサポートも今後続けていただきたい。</p>	○	○	
41102	教職員の健康管理	Ⅲ	Ⅲ	<p>教職員の健康管理に関して多方面から原因究明をしようとする試みがされていることは理解できる。一方で、令和5年度教員満足度アンケートの満足度点数自体が低く、且つ、前年度から低下している。その主たる原因が「研究環境」であり、研究環境の改善が重要な課題である。職員満足度は、前年と大きな差はなかったが、教員満足度よりも低い水準である。いくつかの対策が実施されているものの、職場環境が改善されたとは言い難い状況である。</p> <p>自主的に満足度の数値目標を設定のうえ、抜本的な対策を検討・実施すべき課題であり、原因の更なる調査が必要と考える。</p> <p>特にハラスメントに関する項目は人材確保の観点からも重要であり、重点的に取り組む必要がある。</p> <p>教職員の健康は大学づくりを進めるうえでの根幹であることから今後さらに重視して取り組んでいただき、職場環境のさらなる改善を望む。</p>		○	
42101	教育環境・IT環境の整備	Ⅲ	Ⅲ	<p>中長期的計画に基づいて施設・設備・備品等の整備・改修の充実を着実に進めているが、大学の教育環境・IT環境の整備は学生、教職員にとって教育研究活動を促進するための極めて重要な条件整備となる。</p> <p>したがって、IT環境・関連については教育、研究、経営に支障をきたさないよう、学内全体のIT環境を十分に把握し、加速度的に変化するIT環境を見通して積極的投資の考えのもと、計画的に取り組む、実践していただきたい。また、セキュリティにも十分配慮していただきたい。</p>		○	

42102	図書館運営の充実	Ⅲ	Ⅲ	<p>図書館利用者の利便性向上のため、電子化にて図書館利用サービスを提供したことは評価できる。在学中から図書館の意義、重要性を体験しておくためには図書館の充実が重要であり、図書館の訪問頻度の向上に努めていただきたい。</p> <p>意識して図書館業務委託者とともに使いやすい図書館を目指しているが、課題を出す教員の意見も十分に反映してなじみやすく、使用しやすい図書館になるよう、スピード感をもって進めていただきたい。</p> <p>貴学は特色ある図書館づくりを目指しており、附属看護博物館は注目に値する。今後この博物館が三重県立看護大学ならではの博物館として充実することを期待する。また博物館としてのインパクトがないように考えられるため、さらに県内外の看護関係者のみならず、これから看護師を目指す方々にとって興味関心の持てる博物館となるよう積極的に広報し、アピールすることが重要と考える。</p>			○	
42103	環境等への配慮	Ⅲ	Ⅲ	<p>光熱費高騰の折、環境に配慮しながら省エネを進める努力がみられる。日々の細かな一つ一つの行動であるが、かなり習慣化していると考えられる。引き続き日々の生活の中での環境への配慮を期待したい。</p> <p>バリアフリーやユニバーサルデザインへの配慮をした施設へと計画的に進めていることは評価できる。</p> <p>一般的な啓発活動に留めず、学生の看護教育の中に環境問題やSDGs問題を取り入れる教育があればいいのではないかと考える。SDGsの啓発を積極的にお願したい。</p>			○	
43101	大規模災害時等への対応	Ⅲ	Ⅲ	<p>「安否確認システム」の操作訓練を2回実施した点、返信率が高かった点は評価できる。特に、能登半島地震で北陸地方の学生の安否を確認した点は高く評価できる。能登半島地震を契機に、教職員の自動参集条件を見直すなど、適切なPDCAサイクルが確保されているものと評価する。危機管理態勢については、今後も常に見直していくことが重要であると考えられる。</p> <p>災害発生の際に、これまでに作成したマニュアルに基づいた行動をとり、マニュアルや対応の確認ができていたことはより実践的で効果的であった。</p>	○		○	
43102	危機管理への対応	Ⅲ	Ⅲ	<p>危機管理への対応はリスク管理委員会で一括して対応を進めていくというわかりやすい組織にはなっている。</p> <p>新型コロナウイルス感染症が5類になったとはいえ、コロナ感染者の動向には注意が必要なことから、大学においては引き続きリスク管理委員会を中心にコロナ対策を学生、教職員に徹底いただきたい。</p> <p>しかし、危機管理の中で、特に情報技術は日進月歩であるため、サイバー攻撃への対応など情報のリスクに関して十分に予測できる内容の対応を考えておく必要がある。サイバー攻撃を受けた場合を想定した訓練の実施など踏み込んだ対策を検討し、ネットワークの安全管理も徹底してほしい。</p>			○	

44101	人権尊重とハラスメント防止	Ⅲ	Ⅲ ハラスメント防止の研修会は学生、教職員など、さらに学年別、役割に分けて詳細に対象者別に必要な内容を実施していることは評価する。一方でせっかく実施しても1年生向けは令和4年度も令和5年度も参加者が少ない。実施方法に関しては前年度の評価をしたうえで有効な方法で行うなどの検討が必要である。 ハラスメント相談件数の増加については、ハラスメントに対する声をあげやすい環境が整備されたとの理由であるが、これまでのハラスメント防止策の実効性が懸念される状況であると考える。また、今後重大なハラスメント事案(刑事事件等)がおこった場合においても外部相談窓口と連携し対応するなど、適切にリスク管理を実施いただきたい。		○	
計	8項目			2項目	8項目	0項目

<Ⅳ 的確な業務運営の実施及び業務改善に関する取組>

項目番号	項目名	評価記号		評価委員会のコメント(又は評価委員会の判断理由)	「全体評価」における重点的な取組及び特筆すべき取組	「項目別評価」への反映	
		法人評価	委員会評価			重点的な取組及び特筆すべき取組	評価に当たっての意見、指摘事項等
51101	組織体制	Ⅲ	Ⅲ	<p>大学戦略会議を設置し、大学の将来構想など大学の今後に向けた方向性が議論できていることは評価できる。貴学の将来構想や直面する喫緊の課題への対応策等について幅広く議論することを期待する。</p> <p>小規模大学であるため、この戦略会議の大学の組織上における位置づけ、教育研究審議会をはじめ他の委員会等との関係、戦略会議の所掌事項や権限を明確にする必要があると考える。それに伴い、これまでの一部重なり合う会議の整理など、会議のスリム化を考えていくことも重要である。</p> <p>内部統制規定の運用は評価できる。</p>		○	
52101	教職員の充足	Ⅲ	Ⅲ	<p>全国的に看護教員が不足している状況の中で、優秀な教員を得るため、幅広く公募をかけ学内審査を経て適切な教員を採用する努力をしていることは認められる。特徴的なことは、連携協力協定病院の13病院のうち2病院と人事交流(1年間)を行い、1名を本学の助手、1名を特任助手として受け入れたことである。人事交流は多様な人材を得るための重要な試みとして評価できる。この人事交流の成果を期待したい。</p> <p>一方、貴学に合う優秀な教員の定着を図っていく努力や公募の時期などの工夫も必要であろう。</p> <p>法人固有の職員は大学運営にとって大切であるため、大学業務全般に精通するよう教育していただきたい。</p>		○	
52201	教員の育成と働き方	Ⅲ	Ⅲ	<p>教員の育成に関わって、若手教員(博士号未取得)に対して学内制度を生かして博士課程への進学を積極的に推進した点は評価される(7名中2名学位取得)。また、教員満足度アンケートに基づき、職場環境の改善策が実施されていることは評価できる。教員の働き方改革の推進は今後も継続して実施すべきである。</p> <p>教員活動評価・支援制度の意義や活用について教員に対し十分な説明を行い個々人に理解してもらう必要性があり、今後、実施した改善策の効果を検証しつつ、更なる職場環境の改善を期待する。</p>		○	
52202	事務職員の育成と働き方	Ⅲ	Ⅲ	<p>異動なくずっと大学職員として働く法人固有職員の育成と役割、そして活用方法については中長期的に計画し、方向性を示したうえで育成していただきたい。また、高等教育機関(大学)固有の事務能力を育成するために様々な取り組みを実施しているが、今後人事計画の中に県職員と法人職員(ex.大学行政のプロフェッショナル等)のバランスを考えた配置が必要かと考える。</p> <p>職員満足度アンケートに基づき、職場環境の改善策が実施されていることを評価する。今後、実施した改善策の効果を検証しつつ、更なる職場環境の改善を期待する。</p> <p>人手不足は日本経済にとっての重要課題であるため、職場環境・労働環境を良くして優秀な人材を確保し、人材を育成していただきたい。</p>		○	

計 4項目

0項目

4項目

0項目

< V 財務内容の改善に関する取組 >

項目番号	項目名	評価記号		評価委員会のコメント(又は評価委員会の判断理由)	「全体評価」における重点的な取組及び特筆すべき取組	「項目別評価」への反映	
		法人評価	委員会評価			重点的な取組及び特筆すべき取組	評価に当たった意見、指摘事項等
61101	自己収入の確保	Ⅲ	Ⅲ	公立大学にとって自己収入の確保は難しいが、施設使用料、認定看護師教育課程「感染管理」に係る入学検定料・入学金、地域交流センター事業収入、修学支援基金寄付金と努力していることが伺える。今後はさらに大型科研の間接経費や国の補助金などの収入確保も努力次第で可能だと考えられるため、しっかりと検討してほしい。 また、賞学で特許をとった製品の商品化など新たな自己資金確保の方法も考えていただきたい。 ふるさと納税制度の適用は評価できる。今後さらなる活用や納税制度の周知に期待したい。		○	
61102	知的財産の適切な保護と活用	Ⅲ	Ⅲ	令和5年度に2件の特許を取得したことを評価する。今後、実用化を期待する。また、これらの研究成果を大学の魅力として広く発信すると同時に知的財産に対する教職員、学生の意識醸成を促す必要がある。今後新たな特許やスタートアップ事業の展開が望まれる。		○	
62101	経費の抑制	Ⅲ	Ⅲ	財政が厳しい折、教育研究活動を保障したうえでコストカットの意識を高め、様々な施設設備等の細部にわたる節減に努めていることが伺えた。継続した意識づけを期待したい。 節減によって生み出された財源を活用し、学内の環境整備に対応し、就労環境の整備に努めたところは評価できる。		○	
63101	資産の適正管理	Ⅲ	Ⅲ	中長期修繕計画に基づいて県の補助金を活用して大型修繕を実施している。また、施設を有効利用する姿勢も伺える。 資産は適正に管理していると考ええる。 老朽化した施設は、素早い修繕が必要であるため、今後も適正管理を期待する。		○	
計	4項目				0項目	4項目	0項目

< VI 大学教育の質保証及び情報の公開・発信に関する取組 >

項目番号	項目名	評価記号		評価委員会のコメント(又は評価委員会の判断理由)	「全体評価」における重点的な取組及び特筆すべき取組	「項目別評価」への反映	
		法人評価	委員会評価			重点的な取組及び特筆すべき取組	評価に当たった意見、指摘事項等
71101	自己点検・評価及び外部評価	Ⅲ	Ⅲ	評価委員会等からの改善コメントをふまえて、令和5年度において改善に向けて取り組まれたことを評価する。 業務実績については、各委員会—自己点検評価委員会で検討・確認後→法人評価委員会(外部)—法人会議—教授会—事務教職員研修という流れでフィードバックされている。フィードバックされた結果が次年度の業務にどのように具体的に反映され、積みあがっているかが重要な事柄である。		○	

71102	内部監査の推進	Ⅲ	Ⅲ	内部監査の推進は確実に進歩していることは評価できる。 また、内部監査(①公的研究費、②授業用経費、③学生及び職員の健康管理、④環境マネジメントシステム)は適切に実施されていると考える。		○	
72101	情報公開・情報発信の推進	Ⅲ	Ⅲ	情報公開に関しては、大学のHPで公表し、「財務諸表」に関しては会計監査人による監査を受けている。運営の透明性は確保されていると考える。 情報発信については、紙媒体と大学や県のHP、さらに若者向けの電子媒体を組み合わせ積極的に取り組んでいる。また、情報の公表・発信、広報に関してはいろいろ工夫しながら多くの関係者の目につくような方法を考え、前向きに取り組んでいる。新たな広報の取り組みとして動画作成を評価する。 今後の課題は魅力あるコンテンツ作りであろう。		○	
計	3項目				0項目	3項目	0項目